

# 新潟・福島豪雨を雲解像モデルで再現に成功 予報研究部



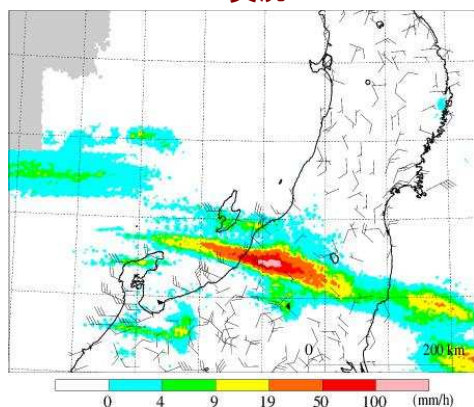
**はじめに** 7月13日に新潟県を中心に集中豪雨が発生し、16名の方が亡くなるなど甚大な被害が発生した。この集中豪雨（2004年新潟・福島豪雨）を現在気象研究所で開発中の雲解像モデルによって再現することに成功した。

併せて、予測上の問題点と今後の課題も明らかになった。

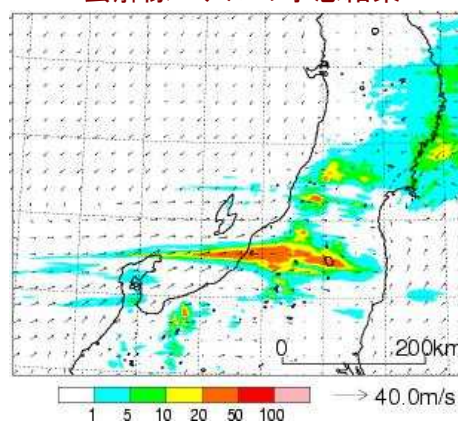
**予測の結果** 2004年7月13日 09～12時の3時間降水量

7月12日22時を予想開始時刻とするもの [→詳細を見る](#)

実況



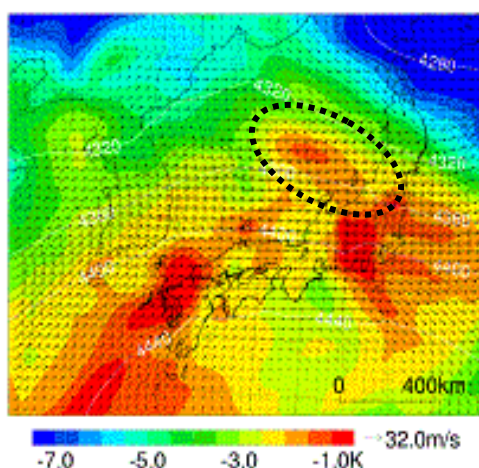
雲解像モデルの予想結果



**集中豪雨 —もう一つの要因—** 集中豪雨発生の要因としては大量に水蒸気を含む空気が太平洋高気圧の縁を回って流れ込むことが通常取り上げられるが、もう一つ重要な要因として、高度5 km付近に、寒気ではなく乾気（乾いた空気）が中国大陸から日本海または東シナ海を越えて流入して大気状態が非常に不安定になることが決め手となることが多い。 [→詳細を見る](#)

2004年7月13日9時における高度約5kmにおける大気の状態

温度



相対湿度分布

